

研究 主題	自分の思いを大切に、見方・感じ方を深め、意味や価値をつくりだせる児童の育成 ー図画工作科における共通事項を意識した対話型鑑賞の授業づくりを通してー
----------	--

第3学年図画工作科学習指導案

指導月日 令和3年10月25日

所属校名 石巻市立和湊小学校

氏名 佐藤 哲平

1 題材名「いろいろうつして」（日本文教出版株式会社 図画工作3・4上）

2 題材の目標

(1) 材料を組合せて版をつくり、形や色などの感じを捉えながら表し方を工夫して版に表すことができる。

〔知識及び技能〕「A表現」(2)イ,〔共通事項〕(1)ア

(2) 形や色、それらの組合せによる感じなどを基に、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方を感じ取り、自分の見方や感じ方を広げることができる。

〔思考力、判断力、表現力〕「B鑑賞」(1)ア,〔共通事項〕(1)イ

(3) つくりだす喜びを味わい、進んで版の材料や形や色、写し方などを工夫して表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

「学びに向かう力、人間性等」「A表現」(1)イ

3 題材観

本題材は、学習指導要領の「A表現」(1)イ, (2)イ, 「B鑑賞」(1)ア, 共通事項(1)ア, イを受けて設定している。

本題材は、身近にあるいろいろな材料で版をつくり、形や色、それらの組合せによる感じなどを基に、表し方を工夫して紙版画に表す題材である。スタンプを押したり、版を刷ったりすることを通して、段ボールや紐など、身近にある材料の凹凸や形、それらを写し取ったときの組合せなどの面白さに気付くことができる題材である。身近にあるものでも、いろいろな表現の仕方があることに気付き、自分なりの表し方で表現する楽しさを味わうことができる。つくりたいものを構想し、版づくり、刷り、付け足しなど、いくつもの工程を経て自分が表したいものをつくる本題材は、出来上がったときに満足感を味わうことができる題材である。また、自分が表したものと友達が表したものを鑑賞する活動を通して、自分の見方や感じ方を広げ、新しい気付きができる活動としたい。

4 児童の実態〔第3学年1組21名（この他に特別支援学級在籍児童1名も一緒に学習する）〕

本学級の児童は、明るく元気に生活し、何事にも意欲的に取り組んでいる。ほとんどの児童は図画工作科の時間を楽しみにしており、学習に対して積極的に取り組む姿が見られる。図画工作科の学習に関するアンケートを実施したところ、表現の活動だけでなく、鑑賞の活動を楽しみしている児童が増えたことが分かった。自分が表したいものが決められず活動が進まなかった児童は、鑑賞の時間で感じたことを、表現の時間に生かすことができるようになり、図画工作の授業で満足感を味わうことができるようになってきた。

版画を扱う題材は、これまでに経験したことが少なく、3年生の時に「今年の思い出」というテーマで紙版画の学習をした。紙を切り、版をつくり、インキを付けて刷るという一連の作業については理解している。また、刷る段階で版が反転することも理解している。細かい模様を表現したかったが、

思うように出来上がらず、版画で表現することの難しさを味わった児童が数名いたが、「もう一度挑戦してみたい」と前向きな姿勢であった。

鑑賞の学習は、1学期から継続して実施してきた。鑑賞の方法や鑑賞の場所などを工夫して実施している。一つの作品についてみんなで意見を発表し合ったり、ワールドカフェ形式で実施したりした。また、図工室や多目的スペース、体育館や校庭など、題材に合った鑑賞の場を設定して鑑賞してきた。児童は、「次はどんな鑑賞をするのかな」と発言するなど、鑑賞の時間を楽しみにしている。

表現と鑑賞をいったりきたりしながら学習してきたことで、鑑賞の活動を通して感じたことを表現の活動で生かすことができるようになってきた。また、授業の導入や展開の段階で、参考作品を見たり、友達の取組の工夫などを見たりミニ鑑賞会を通し、友達の表現方法や構想などのよさや面白さに気付くことができるようになってきている。

5 指導観

本題材では、形や色のイメージ、それらを組合せたイメージなどから、児童が表したいものを見付け、紙版画で表現する。今回の学習では、「みんなが楽しめるテーマパーク（和瀏ランド）をつくろう」というテーマを設定して活動する。「テーマパーク」という言葉から、動物園や水族館、遊園地などを連想させ、具体的な場所やそこで暮らす生き物を考えさせる。これまでの生活経験から児童にとって考えやすいテーマであると考えた。また、いろいろな場所や生き物が連想でき、イメージが膨らみ楽しく活動できると考えた。

本題材は、6時間で表現と鑑賞の活動を行い、3段階に分けて授業を進めることとする。第1段階では、いろいろな材料のスタンプを使い、形や色を組み合わせたときの面白さに気付かせ、自分が表したいものや表し方について考える力を育成させたい。

第2段階は、見方や感じ方を深め、表現する段階とする。第1段階で見付けた、自分が表現したいことを版に表し、紙版画をつくる。見方や感じ方を深めるとは、紙版画づくりの活動を進める中で、形や色、それらの組合せから、自分が表現してみたいと思っていたものの他に、新たに表現してみたいと思うものが思い付くこと。また、友達の取組などを参考に表現したいものに工夫を加えたりすることと捉える。第2段階では、紙版画の基本的な技能を身に付け、いろいろな表現方法を工夫し、自分の表したいものを表す力を育成したい。

第3段階は、自分なりの意味や価値をつくりだす段階とする。鑑賞の活動を通し、自分が表現したものや友達が表現したもののよさや面白さに気付かせる。自分の表現したものに対する思いや、自分の表現したものに対する友達からの励ましなどにより、世界に一つだけの大切なものであるという思いを持たせる。そのことで作品や本題材の取組に対する自分なりの意味や価値をつくりだし、自分の取組に満足感を得させたい。また、小規模校という点を生かし、多目的スペースを活用し、児童の作品を展示して全校で見合うなど、全校を巻き込んだ活動にしていきたい。これらの活動を通して、題材の目標に迫りたい。

6 研究主題との関連

研究主題である「自分の思いを大切にし、見方・感じ方を深め、意味や価値をつくりだせる児童の育成」に関わって、以下のような手立てを講じることで、研究主題に迫っていきたい。

(1) 共通事項を意識した指導の工夫

学習指導要領の第3学年及び第4学年〔共通事項〕(1)ア及びイにあるように、本題材では、表現や鑑賞の学習を通して、形や色に注目して指導していく。ただし、教師から一方的に知識や技能を指導するのではなく、児童の気付きを促すような指導をしていく。「どうしてそう感じるのだろうか」「なぜうまくできないのだろうか」「どうすれば思うように表現できるのだろうか」などという児童が「なぜ」「どうして」と考えるような発問をしていく。

(2) 鑑賞会の実施

教師がファシリテーターになり、いろいろな場面で鑑賞会を実施する。導入では、参考作品を基に10程度のミニ鑑賞会をする。これからどんな活動をするか考えさせ、活動に対する意欲を喚起させるとともに、作品の仕上がりのイメージを持たせることをねらいとする。展開の段階では、面白い発想や、他の児童の参考になる取組を紹介するミニ鑑賞会をする。何をつくれればよいか思い付かない児童や、思うように作品づくりが進まない児童にとって、活動のヒントになることをねらいとしている。また、ミニ鑑賞会を通して、友達を取組のよさに気付かせることもねらいとしている。まとめの段階では、1時間の鑑賞会をする。本題材では、小グループになり、グループ内で自分たちの表現したもののよさや面白さを見付け合い、それを他のグループの友達に紹介するという方法で実施する。学級全体で鑑賞会をすると、一つ一つじっくりみる時間は短くなってしまいが、小グループにすることで、表現したものをじっくり見合う時間ができる。初めての方法だが、いろいろな形の鑑賞会を経験してきた児童にとって、新たな形の鑑賞会を楽しめるよう、鑑賞の仕方のルールを確認してから実施する。

7 題材の指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かっている。 （〔共通事項〕(1)ア） ②版画の用具を適切に扱うとともに、接着剤や版にする材料などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫している。 （〔A表現〕(2)イ）	①形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージを持っている。 （〔A表現〕(1)イ） ②材料を組合せて版をつくりながら感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 （〔A表現〕(1)イ） ③形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 （〔B鑑賞〕(1)ア）	①つくりだす喜びを味わい、進んで版の材料や形や色、写し方などを工夫して学習活動に取り組もうとしている。 （〔A表現〕(1)イ）

(2) 題材の全体計画（6時間扱い 本時6／6）

時	主な学習活動	評価の観点、評価方法				備考
		知	技	思	態	
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	【第1段階】 ①スタンプを押す場を決める。 ②いろいろ試す。 ③形や色、組合せることの面白さを味わう。 ④自分が表現したいものを見付け、表現したいという思いを持つ。 ※第1段階と第2段階を数日空ける	◎ ・作品 ・観察 ・発言		◎ ・作品 ・観察 ・発言	○	1時間目は記録に残す評価はしないが、「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、2時間目以降の指導に生かす。それを踏まえて2時間目に「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。

2	【第2段階】 ①いろいろな材料を集める。 ②版づくりをする。 ③刷る。 ④描き足し、作品を完成させる。	◎ ・作品 ・観察 ・発言	◎ ・作品 ・観察 ・発言	○		2時間目は「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。 3時間目は記録に残す評価はしないが、「知識」「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。 4時間目は「知識」「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。	
3							
4							
5	【第3段階・前半】 ①活動について知る。 ②グループをつくる。 ③グループのいいところを話し合い、次時に向けて説明の準備をする。 ④自分たちテーマパークに必要なものを話し合ったり、つくったりする。			○ ・作品 ・観察 ・発言	◎ ・作品 ・観察 ・発言	5時間目は記録に残す評価はしないが「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。	
6	【第3段階・後半】 ①自由に鑑賞する。 ②順番に各グループを鑑賞する。 ③自分たちのグループのよさや面白さなどを説明する。 ④各自が見付けた和湊ランドのいいところを発表し活動をまとめる。 ⑤各学級や先生方を和湊ランドに招待することを知らせる。				◎ ・観察 ・発言 ・ノートやタブレット端末	◎ ・観察 ・発言 ・ノートやタブレット端末	6時間目は「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。また、「主体的に学習に取り組む態度」は全体を通して把握し、最後に記録に残す。

8 本時の計画

(1) 目標

自分や友達の作品のよさや面白さを見付け、自分の見方や感じ方を広げている。

(2) 本時の指導に当たって

本時では、多目的スペースに「和湊ランド」をつくり、自分や友達の作品のよさや面白さを見付ける鑑賞の活動をする。「和湊ランド」とは、自分たちが表現したもので作ったテーマパークのことで、遊園地や動物園、水族館を模したコーナーを設置した。教師は「和湊ランド」の支配人、児童は、各コーナーの担当者という設定で、多目的スペースをテーマパークに見立て活動した。

導入では、活動の流れや注意点、めあてを確認させ、目的を持って活動できるようにする。まず、自由に鑑賞する時間を設定する。ノートやタブレット端末のカメラ機能や動画撮影機能を使い、自分が見付けた和湊ランドのよさや面白さを感じたところを記録させる。記録したものは活動のまとめの際に活用させるとともに、教師が評価する際の一助とする。次に、全体で鑑賞をする。前時の活動を基に、各グループで表現したもののよさや面白さなどを他のグループの友達に説明させる。説明しているグループ以外の児童は、その説明を聞いたり、表現したものを見たりする。その際、対話型の鑑賞になるよう、教師は必要に応じて発問する。「何が見えるかな」「何かと似ているかな」「どんな色があるかな」「材料はなんだろう」など、本題材の目標に迫るよう、形や色、それらの組合せに注目させる。教師の発問に対する児童の発言をつなぎながら、児童同士で相談させ、新たな気づきができるようにする。このような活動を繰り返していく中で、自分の見方や感じ方を広げていく。世界に一つだけしかない自分たちだ

けのテーマパークを表現できたことを実感させ、本題材に対する満足感や達成感を味わわせる。

最後に「みんなの和渕ランドに、全校児童や先生方を招待しよう」と提案し、国語の時間に招待状を書き、全校児童と先生方に渡すことを伝える。招待状には、和渕ランドの良いところを書き、できるだけ多くの人に来てもらえるようにする。ノートやタブレット端末で記録したものや、鑑賞会を通してよいと思ったものなど、自分が見つけた和渕ランドの良いところを書かせる。他の学年の児童や先生方に見てもらうことで、満足感と達成感をさらに味わわせる。また、本学級の鑑賞会では気付かなかったことを、他の学年や先生方に見付けてもらい、交流を通して見方や感じ方を広げることにも期待できる。活動が終わって数日間は、多目的スペースに「和渕ランド」を保存しておき、他の学年や教職員などが自由に鑑賞できるようにする。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問 ・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入	1 本時の学習のめあてを知る。 ○「和渕ランドのよさ、おもしろさをみんなで見つけよう」 ◆楽しそうな活動だな。 ◆どうやって見付けるのかな。	一斉	◎自分たちのグループが表現したもののよさや面白さを発表し、友達のグループのよさや面白さを見たり聞いたりすることを確認する。	
5分	2 学習の見通しを持つ。 ・本時の流れを確認します。ホワイトボードを見ましょう。 ◆みんなの発表が楽しみだな。 ◆自分たちのグループのよさや面白さを発表したいな。 ◆発表が少し恥ずかしいな。		◎本時の活動の流れをホワイトボードに書き見通しを持たせる。 ◎質問がある場合は、全体で確認し、必要に応じてホワイトボードに書く。	
展開	3 自由に鑑賞をする。 ・準備をしましょう。 ○どんな生き物がいる（物がある）かな。友達が表現したものの良いところをや面白いところを見付けよう。 ◆これの形が面白いね。 ◆面白い色の魚がいるね。 ◆どうやってこの模様をつくったのかな。	少人数の班	◎グループになり、鑑賞会の準備をさせる。 ◎自由に鑑賞する時間のルールを掲示する（掲示物①）。 ◎タブレット端末を使い、自分が良いと思ったところを記録（撮影）させる。 ◎全体の様子を把握しながら、児童の気付きを促す発言や動きをする。 ◎鑑賞会のルールを掲示する（掲示物②）。 ◎教師はファシリテーターとして、形や色、組み合わせに鑑賞の視点を向けさせる。また、友達と相談したり、考えたりさせる発問や動	（思考・判断・表現） ③ 形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 （観察、発言、ノー
3分5分	4 全体で鑑賞会をする。 ○何か気付いたことはありますか。どんな形・色がありますか。他に気になる物がありますか。 ◆みんなの和渕ランドは楽しいな。 ◆さっきは気付かなかったけど、こ			

	こが面白いな。 ◆他の学年の友達にも見せたいな。 ◆先生方も来てくれないかな。	個人・ペア等	きをする。 例)「何が見えるかな」「何かと似ているかな」「どんな色があるかな」「材料は何だろう」などの発問。 指をさす, 作品を並べる, 作品を逆さまにするなどの動き。	トやタブレット端末)
まとめ 5分	5 活動をまとめる ・自分が見付けた, 和浏ランドのよさや面白さを記録しましょう。 ・記録したことを発表しましょう。 6 今後の予定を知らせる。 7 片付けをする。	一斉	◎自分が見付けた和浏ランドのよさや面白さ, 活動の感想をタブレット端末に記録し, 数名に発表させる。 ◎国語の時間に招待状をつくり, 各学級と先生方に渡すことと, 数日間この場を保存し, 多くの人に見てもらうことを伝える。 ◎多目的スペースが他の活動で使えるように, 移動したり, 片付けたりする。	

(4) 本時の評価

評価	評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する児童 (C) への手立て
思考・判断・表現	形の感じ, 色の感じ, それらの組合せによる感じ, 色の明るさなどを基に, 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ, 表したいこと, いろいろな表し方について, 感じ取ったり考えたりし, 自分の見方や感じ方を広げている。 (「B鑑賞」(1)ア)	自分や友達の作品の造形的なよさや面白さや表し方について, 形や色, それらの組合せに注目して鑑賞することができる。また, 感じ取ったことなどを友達に紹介したり, 友達の意見を受け入れたりする中で, 作品のよさや面白さに新たに気付く, 自分の見方や感じ方をさらに広げることができる。	鑑賞する際, 形や色, 組合せに注目することができるよう, 話し合いの視点を与える。

(5) 準備物

①教師：掲示物，ホワイトボードペン，CD

②児童：作品，いいねノート，鉛筆，タブレット端末

(6) 板書計画

10/25 いろいろうつして 和浏ランドのよさやおもしろさをみんなで見つけよう。	今日のながれ ①自由にかんしょうする ②全体でかんしょう会をする ③活動のふりかえり	掲示物① ※自由鑑賞のルール 掲示物② ※鑑賞会のルール
---	--	--